公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第29回定例理事会議事録

I. 日 時 令和5年11月24日（金）10時00分～12時10分

II. 場 所 医療系大学間共用試験実施評価機構会議室及びWeb会議システム

III. 出席者

理事 栗原 敏（議事録作成者），江藤一洋，齋藤宣彦，高木 康，斎藤隆史
三谷昌平，清水貴子（Web），河野文昭，伊藤俊之，石田達樹，仁田善雄
石原 慎（Web），堀 裕，山口育子，横手幸太郎（Web），釜菴 敏（Web）
監事 村田貴司，鈴木裕子（Web）

IV. 議 題

1. 審議事項

第1号議案 共用試験実施機関の指定申請（歯学系）について
第2号議案 経営改善策（案）について
第3号議案 倫理規則の制定（案）及び遵守事項の見直し（案）について
第4号議案 職員給与規程の一部改正（案）について

2. 報告事項

(1) 共用試験の課題について
(2) 医学生共用試験「臨床実習終了までに修得すること（CATO）」について
(3) 労働基準監督署の調査について
(4) 理事長及び副理事長の職務執行状況について
(5) 予算執行状況について
(6) 共用試験成績について
(7) その他

3. 配付資料

資料番号なし 第28回定例理事会議事録（案）

資料1-1 歯学生共用試験に関する省令等について（厚生労働省医政局長通知）
資料1-2 共用試験実施機関の指定に係る申請開始について
資料1-3 歯学生共用試験要綱
資料1-4 厚生労働大臣が定める基準と「歯学生共用試験要綱」の対応関係
資料2 経営改善策（案）について
資料3 機構倫理規則（案）および委員・試験関係者遵守事項（案）
資料4 職員給与規程の改正について（案）

報告資料 1 - 1	医学生 C B T の課題点
報告資料 1 - 2, 3	医学生 O S C E (前後) の課題点
報告資料 1 - 4	歯学生 C B T の公的化に向けての課題と対応状況について
報告資料 1 - 5	歯学生 Pre-CC OSCE における課題
報告資料 1 - 6	歯学生 P X 実施管理委員会課題
報告資料 2	医学生共用試験「臨床実習終了までに修得すること (CATO)」
報告資料 3	労働基準監督署の調査について
報告資料 4	理事長及び副理事長の職務執行状況報告
報告資料 5	予算実績推移表 (令和 5 年 1 0 月度)
報告資料 6 - 1	共用試験 2 0 2 3 医学系 CBT 結果表 (中間報告)
報告資料 6 - 2	共用試験 2 0 2 3 歯学系 CBT 結果表 (最終報告)
報告資料 6 - 3	共用試験 2 0 2 3 医学系臨床実習前 OSCE 結果表 (中間報告)
報告資料 6 - 4	共用試験 2 0 2 3 歯学系臨床実習前 OSCE 結果表 (後期トライアル分)
報告資料 6 - 5	共用試験 2 0 2 3 医学系臨床実習後 OSCE 結果表 (中間報告)
報告資料 6 - 6	共用試験 2 0 2 2 歯学系 Post-CC PX 結果表 (最終報告)

V. 議事の経過の要領及び結果

栗原議長から、定足数の確認について付議、松尾総務部長から理事の現在数 1 8 名のうち、1 6 名 (うち Web 出席者 4 名) が出席し、機構定款第 3 5 条第 1 項の規定による理事会の定足数については、成立要件を満たしている旨説明があった。

続いて、栗原議長から第 2 8 回定例理事会 (令和 5 年 5 月 3 1 日開催) の議事録 (案) の確認について付議、審議の結果、全員異議なく、原案どおり確認された。

引き続き、栗原議長から議事録署名人の選出について付議、機構定款第 3 6 条第 2 項に基づき、理事長及び出席した監事を議事録署名人とした。

1. 第 1 号議案 共用試験実施機関の指定申請 (歯学系) について

栗原議長から本件について付議、石田事業部長から資料 1 - 1 「歯学生共用試験に関する省令等について (厚生労働省医政局長通知)」, 資料 1 - 2 「共用試験実施機関の指定に係る申請開始について」, 資料 1 - 3 「歯学生共用試験要綱」, 資料 1 - 4 「厚生労働大臣が定める基準と「歯学生共用試験要綱」の対応関係」に基づき説明があり、審議の結果、修正については理事長に一任することとし、承認された。

審議の過程における主な質問等と回答等は、以下のとおり。

質 問 等	回 答 等
「歯科共用試験」という名称と「歯学生共用試験」という名称、どうするか。(齋藤副理事長)	「歯科共用試験」という名称は、便宜上通知の中だけで使用している表現であり、従前通り「歯学生共用試験」という表現で問題ない。(厚生労働省歯科保健課)

<p>受験者の不正行為や重大な逸脱事案が認められた場合、不正行為に加担した者は、未来永劫共用試験の受験資格を取り消すことになるのか。(村田監事)</p> <p>医学・歯学両方共に、誰が読んでも正しく内容が理解できる文言にした方が良い。(山口理事)</p> <p>「受験の停止」とか「試験の無効」という言葉と「受験資格」という言葉の使い分けの整理ができていないか。(堀理事)</p>	<p>医学生共用試験部会でも議論があったが、現時点では事実上1年間の適用となる。(事業部長)</p> <p>これで医学、歯学が両方揃って公的化されるため、統一した方が良い。また、堀理事の意見を踏まえ整合が取れるよう言葉の整理が必要。(栗原理事長)</p> <p>用語の定義を別表で付ける形とし、理事長一任でお願いしたい。(事業部長)</p>
--	--

2. 第2号議案 経営改善策（案）について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料2「経営改善策（案）について」に基づき説明があり、審議の結果、経営改善策（案）の方向を踏まえ、来年の理事会や総会に諮ることが承認された。

なお、受験料や会費の額等については、今後さらに精査することとされた。

審議の過程における主な質問等と回答等は、以下のとおり。

質 問 等	回 答 等
<p>①医学系は公的化の前年に費用が増えているが、歯学系もさらに費用が必要ではないか。②臨時会費の徴収については、大学によって経済的な体力差があるため相当の苦情が想定されるが如何か。③新規SP養成の講習会を完全eラーニング化するとレベルが低下する懸念はないか。(山口理事)</p>	<p>①公的化に向け歯学系は委員会の開催回数が増えており令和4年度と比較して費用が増える見込。②相当の反対が想定されるが、しっかり説明して理解を得る。③レベルが低下しない工夫を委員会で検討しているのではないかと。(事務局長)</p> <p>諸外国も同様に経費が掛かっている。臨時会費でしばらく乗り切ることも一つの方策。また、受験料を一律に安くすると事業として成り立たない。困っている学生には、医師や歯科医師になろうという志が挫折しないよう手当する。(栗原理事長)</p>
<p>将来的にeラーニングが難しくなる可能性もある。完全ではなく原則eラーニングでどうか。(伊藤理事)</p> <p>完全eラーニング化には相当の初期投資が必要。Web講習会等を考慮しながら将来的には完全eラーニング化を進めるとの表現で如何か。(石原理事)</p>	<p>インフラ整備は公的資金に頼らざるを得ない。厚労省や文科省に対しては、あらゆるチャンネルを使って試験の制度が変わったことを理解いただき、支援してもらおうよう申し上げている。(栗原理事長)</p>

<p>共用試験のシステムは、大学人が自らの教育の質を高めようとする自主的な活動であったが、公的化に伴って、その制度作りに経費を要している。これは国が支弁するのが原則であり、補助金を超えた分の自己負担などいかななものか。経常化する前に資金ショートすると国も困るだろう。機構以外の組織は簡単にはできない。国には持続可能なしっかりしたシステムを支えていただきたい。(村田監事)</p>	<p>資格試験は受益者負担と言われるが、医学・歯学の場合は、最終的には国民の医療に還元される。また、国家試験の外注化が進んでいるが、機構は、これまで地道に試験を実施して、その結果を分析してきた実績があるので、試験実施機関として認められたもの。国民の健康と福祉に資する医師・歯科医師を育成するための試験システムを実施しようとしているので、是非とも国からの支援をお願いしたい。(栗原理事長)</p>
<p>国権の最高機関である国会が作った制度を維持するのは国の責任。執行する行政官庁が、他に指定権を行使する候補者がいない中で機構を指定した以上、機構は積極的な国の政策として支援してもらおう立場にある。それと、このような議論は2回できない。徹底的に詰め切った数字を前提に総会で議論することが必要。(堀理事)</p>	<p>数字は精査してギリギリというところを出すようにしたい。(栗原理事長)</p>
<p>委員の謝金は現状のままか確認したい。委員は責任感や使命感を持ってやっており、会議以外にも多くの時間を費やしている。(伊藤理事)</p>	<p>謝金は今よりも改善したいと考えている。正当な労働対価を払わないと働き方改革は成り立たない。(栗原理事長)</p>
<p>C B T等を学ぼうとしている教員の人事交流や事務職員にも機構の事務を経験させて循環させることで、全国的な共用試験に関する雰囲気作りができないか。(伊藤理事)</p>	<p>機構を経験して好循環を回すことは、大変いいことであるが、報酬の面で難しいのではないか。労働対価を含めて協力してもいいと思える仕組みが必要。(栗原理事長)</p>

3. 第3号議案 倫理規則の制定(案)及び遵守事項の見直し(案)について

栗原議長から本件について付議、江藤副理事長から資料3「機構倫理規則(案)および委員・試験関係者遵守事項(案)」に基づき説明があり、審議の結果、修正点について各理事の意見を聞いた上で、次回の理事会に諮ることとされた。

審議の過程における主な質問等と回答等は、以下のとおり。

質 問 等	回 答 等
<p>遵守事項5について、当該年度のCBT問題やOSCE課題を知り得ない業務に携わる場合は、委員に就任しても良いのではないか。倫理規則第5条の「原則として」で読めるか。(齋藤副理事長)</p>	<p>細かく規定すると複雑になるため、倫理規則第5条の「原則として」で読んでいただく。(江藤副理事長)</p>

<p>遵守事項5の文章を変えないと、倫理規則第5条の「原則として」の運用ができなくなるのではないか。(伊藤理事)</p>	<p>遵守事項5の内容と倫理規則第5条との整合性を図る。その文言については、各理事の意見を聞いた上で、理事会に諮ることにはしたい。(江藤副理事長)</p>
<p>国家試験関係は3親等か確認したい。基本的には2親等で良いと思っているが、質問に対する答えを用意しておきたい。(伊藤理事)</p>	<p>国家試験担当者が出席していないので、確認した後ほど情報提供する。(厚生労働省医事課)</p>

4. 第4号議案 職員給与規程の一部改正(案)について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料4「職員給与規程の改正について(案)」に基づき説明があり、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

VI. 報告事項

1. 報告事項1 医学生C B Tの課題点について

三谷理事から報告資料1-1「医学生C B Tの課題点」に基づき報告があった。

2. 報告事項1 医学生臨床実習(前・後)O S C Eの課題点について

伊藤理事から報告資料1-2, 3「医学生O S C E(前後)の課題点」に基づき報告があった。

3. 報告事項1 歯学生C B Tの課題点について

斎藤理事から報告資料1-4「歯学生C B Tの公的化に向けての課題と対応状況について」に基づき報告があった。

4. 報告事項1 歯学生臨床実習前O S C Eの課題点について

江藤副理事長から報告資料1-5「歯学生 Pre-CC OSCE における課題」に基づき報告があった。

5. 報告事項1 歯学生臨床実習後P Xの課題点について

江藤副理事長から報告資料1-6「歯学生P X実施管理委員会課題」に基づき報告があった。

6. 報告事項2 医学生共用試験「臨床実習終了までに修得すること(C A T O)」について

伊藤理事から報告資料2「医学生共用試験「臨床実習終了までに修得すること(C A T O)」」に基づき報告があった。

7. 報告事項3 労働基準監督署の調査について

迫田事務局長から報告資料3「労働基準監督署の調査について」に基づき報告があった。

8. 報告事項4 理事長及び副理事長の職務執行状況について

江藤副理事長から報告資料4「理事長及び副理事長の職務執行状況報告」に基づき報告があった。

9. 報告事項5 予算執行状況について

松尾総務部長から報告資料5「予算実績推移表（令和5年10月度）」に基づき報告があった。

10. 報告事項6 共用試験成績について

仁田学術顧問から報告資料6-1「共用試験2023医学系CBT結果表（中間報告）」、報告資料6-2「共用試験2023歯学系CBT結果表（最終報告）」、報告資料6-3「共用試験2023医学系臨床実習前OSCE結果表（中間報告）」、報告資料6-4「共用試験2023歯学系臨床実習前OSCE結果表（後期トライアル分）」、報告資料6-5「共用試験2023医学系臨床実習後OSCE結果表（中間報告）」、報告資料6-6「共用試験2022歯学系Post-CC PX結果表（最終報告）」に基づき報告があった。

以上をもって議事は全て終了し、議長は12時10分閉会を宣し、解散した。

令和5年11月24日

議 長 栗 原 敏 ⑩

議事録署名人 村 田 貴 司 ⑩

議事録署名人 鈴 木 裕 子 ⑩